令和８年度　桃谷中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

１　全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式 （CBT＝Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）		平均IRTスコア 英語4技能 （）内は3技能（参考）
			国語	数学	国語	数学	
３　年	学校	98	61	50	5.7	15.7	471（472）
	大阪市	－	60	55	5.4	11.4	499（499）
4月23日	全国	－	63.9	57.0	4.9	10.4	499（499）

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
　この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

【成果と課題】
〇全国学力・学習状況調査結果
＜国語＞
平均正答率は61％で、大阪市平均よりも1ポイント上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」では大阪市平均を上回っているが「話すこと・聞くこと」、「読むこと」では大阪市平均を下回っており、今後の課題といえる。
＜数学＞
平均正答率は50％で、大阪市平均よりも5ポイント下回った。領域別では、「図形」の正答率は大阪市平均よりも１０．９ポイント低く今後の課題といえる。
＜英語＞
平均ＩＲＴスコア（英語4技能）は471で大阪市平均より28ポイント下回った。聞くこと、読むこと・書くこと、話すことの技能別ともに府平均を下回った。基礎学力の定着、学習習慣の確立が必要である。

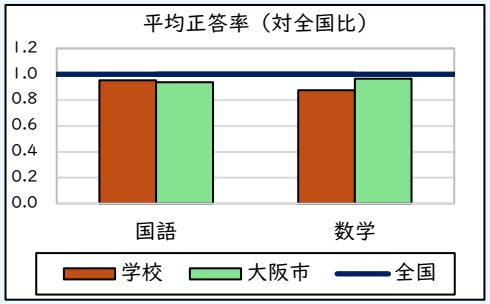
今後に向けて

【今後に向けて】
〇全国学力・学習状況調査結果
＜国語＞
朝学活や授業において適宜復習の時間を設け、基礎的学力の定着を図りたい。また、目的意識を持った言語活動を授業に取り入れ、話すスキルと聞くスキルの向上を目指したい。
＜数学＞
「図形」領域の正答率を上げるため、今後はICT機器を用いた授業を展開し、図形の性質を視覚的に捉えやすくしていきたい。
＜英語＞
基本的な学習事項の復習と定着を図っていく。特に、１，２年時の単語、基礎的な文法事項の確認を行っていきたい。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

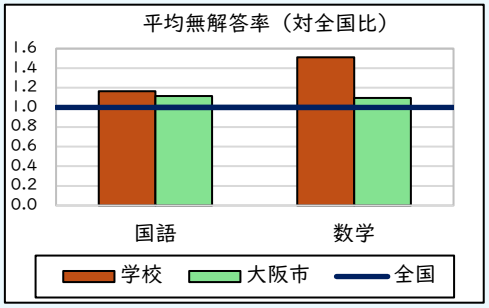
平均正答率（%）

	国語	数学
学校	61	50
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



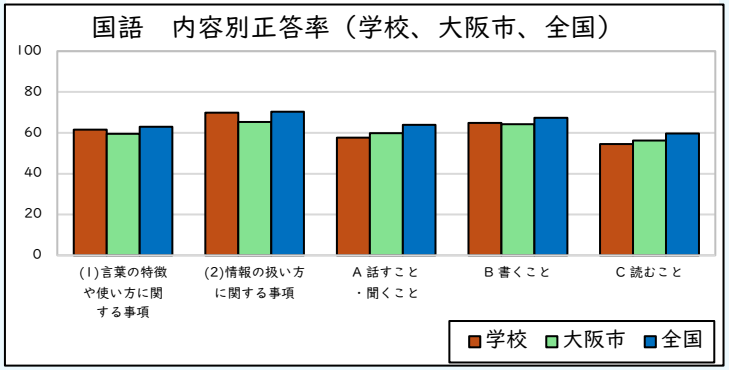
平均無解答率（%）

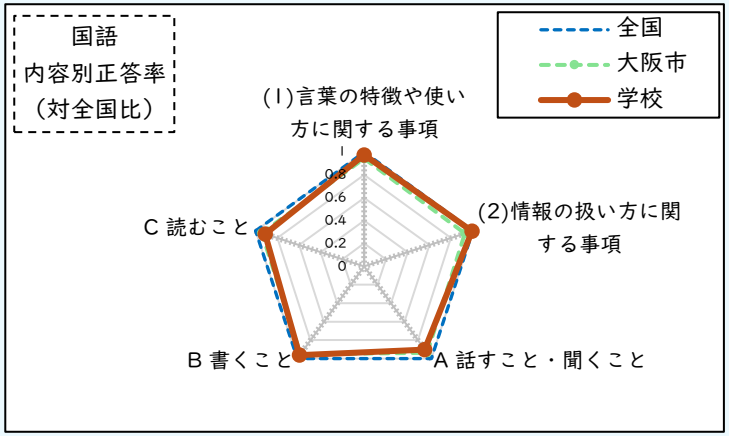
	国語	数学
学校	5.7	15.7
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



【国語】内容別正答率

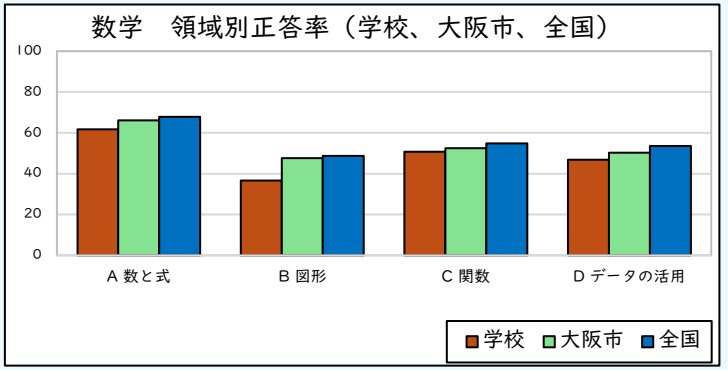
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	61.5	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	1	69.9	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	57.7	59.9	63.9
B 書くこと	3	64.9	64.2	67.4
C 読むこと	3	54.5	56.3	59.7

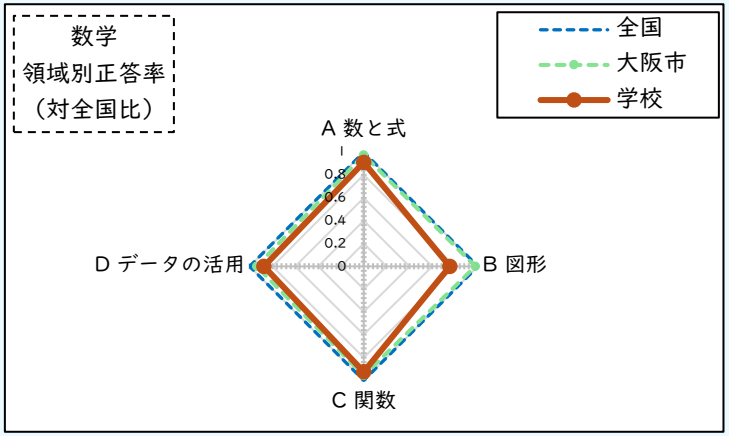




【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と式	5	61.7	66.1	67.8
B 図形	4	36.7	47.6	48.7
C 関数	3	50.7	52.5	54.8
D データの活用	4	46.8	50.2	53.5

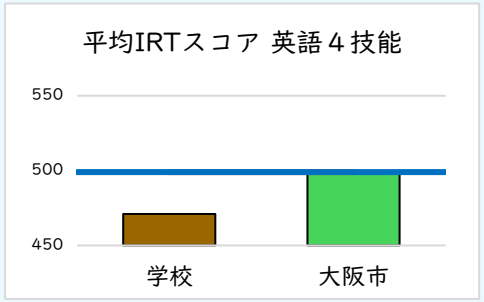




令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（英語）

英語　平均IRTスコア

学校	471（472）
大阪市	499（499）
全国	499（499）



※４技能の平均IRTスコアです

※（　）内は３技能の平均IRTスコアです

【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力に よるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和８年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

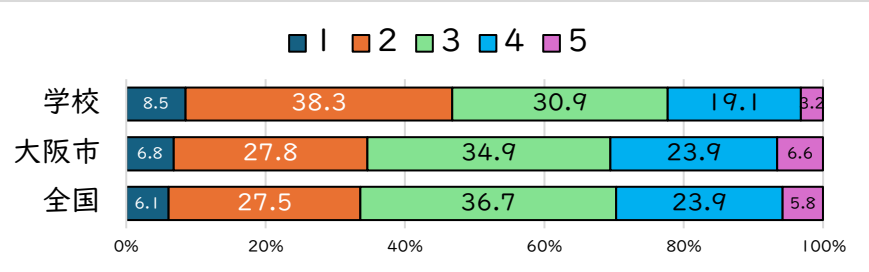
IRTスコアを１～５の５段階に区切ったものです。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなります。

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

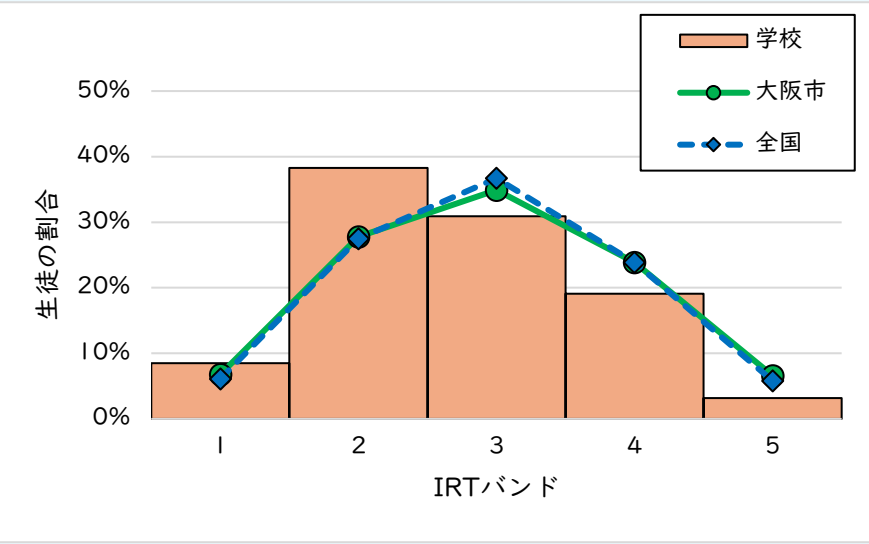
	IRTバンド分布比較（４技能）				
	１	２	３	４	５
学校	8.5	38.3	30.9	19.1	3.2
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※４技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（４技能）



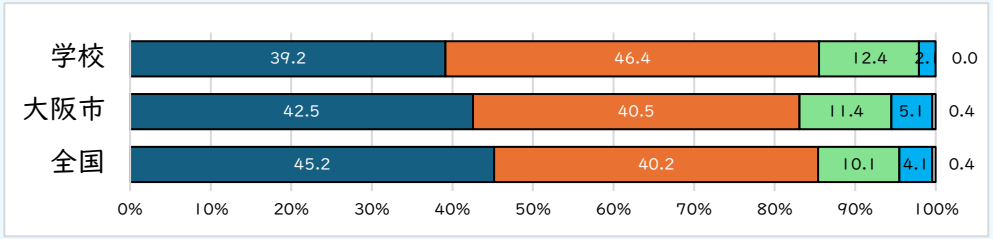
IRTバンド分布グラフ（４技能）



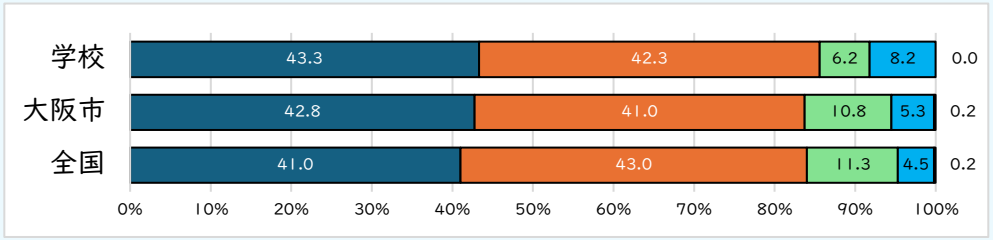
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

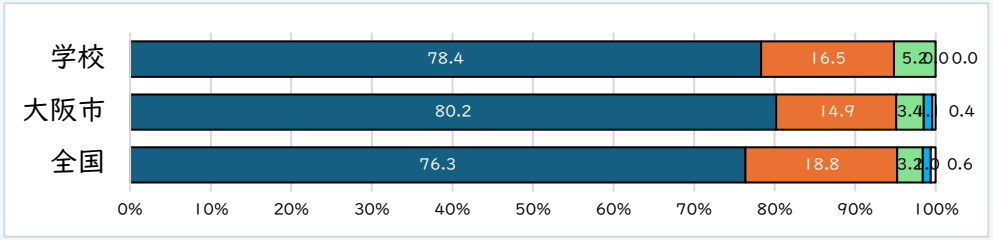
質問番号	質問事項
（15）	学校に行くのは楽しいと思いますか
（8）	自分には、よいところがあると思いますか
（12）	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
（42）	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
（14）	人の役に立つ人間になりたいと思いますか



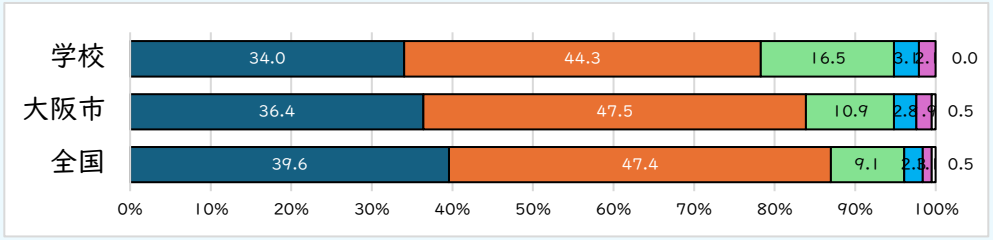
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



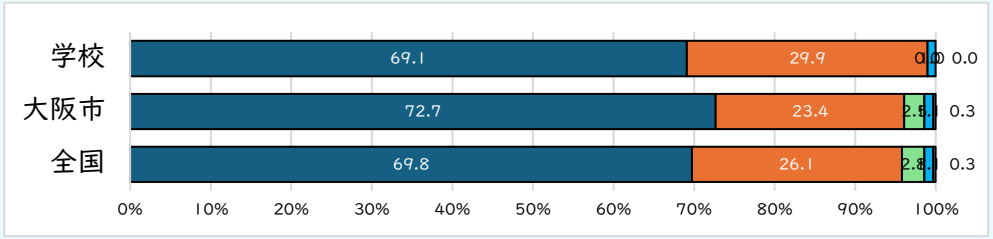
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない
5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号	質問事項
（67）	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか
（26）	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
（87）	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか
（93）	令和７年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）
（68）	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

